

IV 北星小学校で育成すべき資質能力

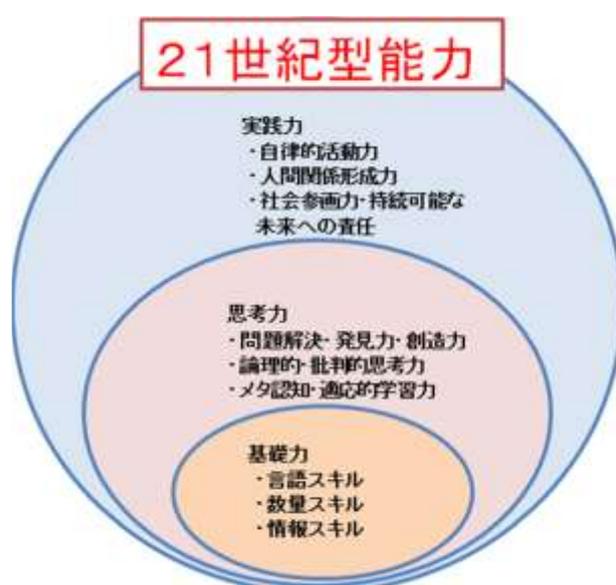
1 なぜ「21世紀型能力」なのか

子ども達が生きていくこれからの時代は、これまで誰も経験したことのない、複雑で激しく変化する社会である。身近な問題も地球規模の課題も、学校で学んだ既存の知識や技能をそのまま使って解決できる問題は少なくなっている。

知識・技能の習得を学びのゴールにするのではなく、状況や課題に応じてそれらを活用し、他者とコミュニケーションをとりながら協働的に問題解決に当たる資質・能力が一人一人に必要とされる時代が既に訪れていることを、子どもの未来を預かる我々は認識しなくてはならない。

このような社会を背景として「何を知っているか」を学力の中心とする近代型の教育から、「実生活や実社会において、いかに知識や技能を活用して問題が解決できるか」を育成すべき力の中心に据える教育の転換を新学習指導要領の完全実施と共に図っていく。

既に本校で研修した「21世紀型能力」は、新学習指導要領の求める「生きる力」として必要な資質能力を明確に定めている。この考え方を基本におき社会に開かれた教育課程を編成し、日常の授業改善の指標とする。



2 育成すべき資質・能力

【基礎力】

- ◇言語スキル～目的に応じて言語を道具として使う
 - ◇数量スキル～目的に応じて数量概念を道具として使う
 - ◇情報スキル～目的に応じて ICT を道具として使う
- 読み・書き・計算・ICT

【思考力】

- ◇問題解決・発見・創造力→問題の解決を通して新しいアイディアの創造
- ◇論理的・批判的思考→その過程で発揮し続けられるもの
- ◇メタ認知・適応的学習力→振り返りのメタ、次に学ぶことを探す適応学習力

【実践力】

- ◇自律的活動力→自分の行動を調整、生き方の主体的選択（キャリア）
- ◇人間関係形成力→他者と効果的なコミュニケーションを取る力
- ◇社会参画力→協力して社会作りに参画する力
- ◇持続可能な未来への責任→倫理や市民的責任を自覚して行動する力

3 北星小学校の教育課程に落とし込み

【学校教育目標】 豊かな人間性 と たくましい実践力 をもった子どもの育成



【目指す子ども像】

- ◇ よく考える子 → 思考力 基礎力
- ◇ 思いやりのある子 → 実践力 思考力
- ◇ ねばり強い子 → 基礎力 思考力 実践力
- ◇ じょうぶな子 → 全ての資質・能力の土台をなすもの

4 授業への落とし込み（授業改善） Point7

- ①学びの文脈を創る。意味がある問い、課題
 - 明確な課題（目標）提示、正対したまとめ（振り返り）
- ②子どもから引き出す問題の多様性
 - 「自分の考えを聞いて欲しい。」
 - 「いろいろな意見を聞いてよかった。」という場の設定
- ③対話的活動
 - 対話的・協働的な話し合い活動
- ④考えるための材料の提供
 - 思考プロセスの言語化、交流。思考の見える化
- ⑤学習ツール、手立ての埋め込み
 - 比較する。分類する。関連づける。
- ⑥振り返り、学び方の自覚
 - メタ認知、反復学習（新課題）
- ⑦学び合いの文化
 - 質の高い学習を体感することで生まれる。

※ 学校教育目標具現化のための授業であることを、指導者の意識の根底に置くこと。